

NPO 法人田村明記念・まちづくり研究会 公開研究会
小田島浩二氏『福岡におけるコミュニティ活動への関りと半生』

2018年6月10日（月）午後6時

横浜市民活動支援センター4階

田村一 今日、小田島浩二さんを紹介いたします。私の中学、青山学院のときからの同級生ですから、もう、何年になるんでしょう。75年近くの間柄ということですね。彼は東大の法学部に行って、それから九州電力に就職されて、大半を原子力発電のお手伝いをしたという事です。そのことで自分を振り返ったという話を聞きました。東日本大震災で原子力発電への疑問などもあり、会社を辞めてから建築のほうの大学にまた入学し、その後、師事した藤原先生から学んだ地域づくり、「まちづくり」の仕事に係わったら、こんな事になったあんな事になった、という話を聞いて、ぜひ、その話を伺いたい、とお願いしました。思えば田村明は実践的にそういうことをやったことがなかったので、やられたということ自体に興味もあったのです。今日は、ざっくばらんに、うち解けた話が伺えればと思います。よろしく願いいたします。

小田島一 小田島浩二と言います。今、紹介がありましたように田村さんとは長い間の付き合いです。時々、我々の仲間たちと会って談話を交わしてきました。今年2月私が九州に帰りまして、3月中頃東京に戻りまして、田村さんと会ったとき、「いや、実は向こうで地域の活動してたら、それが、もう、しっちゃかめっちゃかになっていて」って言ったら、「なんだ、それ。」って聞かれ「いや、かくかくしかじかだ。」って言ったら、「それは面白い、その話聞きたい」で、ここに来る次第になりました。

私の履歴を、今、紹介されましたが、昭和5年生まれです。ですから、87歳ということですね。7人兄弟の下から2番目、大学は法学部ですが、あの頃は非常に飯食うのが大変でした。まあ、あんまり勉強せずに、兎に角留年せずに出て働くというのが、焦眉のことだったんです。大学卒業した年に九州電力が採用してくれたので、九州にまいりました。大体、小学校と中学校ですと東京にいたのですが、母親が九州に関係がありました。それで、九州電力で色々仕事をしましたが、後半の20年以上電源立地に携わりました。これは、原子力発電所をどうやって、何処に造るか、という発電所の建設のための前さばきのことです。まず、関係先に事前に根回しをしたり、用地買収をしたり。漁業権の消滅の補償をしたり、通産省や県・市の許認可を取ったり、あるいは反対派に対応する。それから、最後に公聴会がありますので、壇上に立ってそれに答弁する、そういうことを各所ごとに繰り返しまして、九州の原子力はほとんど手がけました。

そして、原子力の計画があらかた済んだら余り役に立たない、閑職の部長に回されまして。お決まりの関係会社に出向。そして64歳で年金生活に入ったわけです。平凡なサラリーマン生活でありましたが、会社勤めは一生懸命にやっただけだと思います。でも今考えますとその後の方が私の本当の人生だったなと思います。それで退職後、近くにありました九州芸術工科大学という大学の、どの学科でも取れるんですけども、特別聴講生っていうのに入りました。これは65歳。ですから、今から22年前です。

若い頃は法学部であまり勉強しなかったので、今度は心を入れ替えてと思ひまして、昔の卒業証書と出来の悪い成績書を出して申し込んだのです。ここは環境設計、画像設計、音響設計、工業設計、そして芸術情報設計とあるのですが、工学系の学校ですので、環境設計の建築デザインというコースを専攻しました。要するに、建築は歴史や文化や時代を反映しているから面白そうだなというのが本音です。ちょっと余談になりますけども、50歳頃スペインのアルハンブラ宮殿にまいりまして、それで、そこでイスラム建築が分らないまま、へえ、これが彫刻された大理石の柱廊に囲まれた部屋か。ライオンの中庭っていうんですけど、感心したことがあるんで、日本に帰って来てから、ぼろっと、その「アルハンブラ宮殿に行った。」てしゃべったら人から色々聞かれまして、赤恥かいたことがありました。

5年間。ちょうど自分の孫のような同級生と一緒に。若い先生がたに教養課程。哲学ですとか、美術史とか音楽、絵画論などの一般教養課程もひっくるめて。まあ、語学もあるんですが、できるだけ真面目に出て、そして、多くの研究会や読書会に参加しました。

西洋建築デザインや日本建築の様式を学びながら、先生に従って都市計画とかまちづくりなど環境設計に手を広げていったわけです。大体、先生っていうのは、皆さん若いんです。私より25歳ぐらい年下ですので、私は非常に大切にしていきました。学外ですがヨーロッパの建築ツアーにも参加しました。30名ぐらいで、ちょうどバス1台借りるぐらいですが、1カ月間早稲田大学の教授に付いて全国各地を見学して廻るんです。これ、結構面白いございましたね。先生はル・コルビュジエの信奉者と見えまして、あんまり行けないんですけども、ロンシャンの礼拝堂などル・コルビュジエの作品は殆ど連れて行ってくれました。いろいろ建築物や広場や通りについて本当に懇切丁寧に過去から現代までの経緯を説明してくれました。

ここで本題に入りますが、福岡の地域社会への参加ということですけども、私が居住地の地域活動に関わったのは、定年後しばらくしてボランティアで町内会の会長の依頼を受けたわけです。町内会っていうのは最小の隣組があつて、1組は10戸位ですが、それを5、6組まとめた町内会が一つの単位になっています。ちょうど大学に通いだして間もなくだったので、2、3年ほど町内会長をしました。定例総会に出席したり、配布物を配ったり掲示板を管理するのです。その後町内会の統括組織の西高宮校区自治協議会の運営に携わりました。それで2年ほどして一緒にいた住友商事の退職者を担いで会長にして、私は副会長に就いたんです。

次に西高宮校区の説明をします。福岡市は町人の町の博多と、武家の町の福岡が東西にありまして、真ん中に中洲川端という繁華街があるんです。今は繁華街も各地に広がっていますがそれでも中心です。福岡市の市役所のある天神から西鉄大牟田線で南の方に二駅目が西鉄平尾です。次が高宮です。西鉄平尾と高宮を底辺にしまして、いわゆる西側。これが、ずっと台地になって住宅地が広がっていますがそこが西高宮校区です。

そのほぼ真ん中に西高宮小学校がありあます。その隣に池を挟んで西高宮公民館があります。丁度公民館と小学校を中心に校区を成しているわけです。校区の表示区域は福岡市南区の高宮と市崎と平和という三つの地区です。西鉄平尾駅の東側には校区外ですが、高宮中学校があります。余談ですが西高宮小学校も高宮中学校もいずれもタモリの母校です。

自治協議会組織の説明に入らせていただきます。自治協議会には傘下に 28 町内会があり四つのブロックに分けています。高宮が 2 ブロック、平和と市崎が 1 ブロックずつです。それに並列して各種団体が 14 団体並びます。交通安全から始まって老人クラブまでがいわゆる地域の活動団体です。さらに中学校・小学校の PTA がメンバーに入っております。

西高宮公民館というのがありますが、行政の出先機関です。校区ごとに福岡では公民館がありまして、140 から 150 人が入る講堂があって、あと、事務室と小部屋がいくつかあって 2 階に大小の会議室と図書室が並んでいるというような建物です。この公民館には、肩書は区役所の職員で公民館長と主事がありますが地域の状況に適切な人を選んでいきます。あとはアルバイトの女性が 4、5 人いるわけでございます。自治協議会もここに事務局を置いています。

それで、協議会には役員がいます。会長、副会長、総務、会計、そして広報です。現在は副会長 2 名で計 7 名でございました。町内会が 28 町内会で戸数が 7000 戸から 7500 戸です。もっと増えているかもしれません。機能として会議体を設置しておりまして、総会と役員会と全体会議と町内会長会とそれぞれのメンバーで構成しております。活動は活発で夏祭りや運動会、各種団体の活動など、例年の通りに運営されていまして。

私は、もう暇だったというか、子ども会ですとか老人会に入って各種団体のイベントにも参加していました。しかし中に入って良く見廻してみると、これが例年の流れに従うだけでマンネリに運営されているのに気付きました。そして副会長になってからいろいろ活動を見直すようにしました。規約から手を付けました。規約委員会っていうのを立ち上げて、自分が会長になりまして、それで実態と規約を対比しながら実態案件を一つずつ話題にして討議するというのを心掛けたわけです。改正案を提案して辛抱強く説得していきました。

まず、例ですが、費用弁償という名の役員に対する少額の報酬があるんです。年間 60 万円位の予算です。それから、退任の際、経年に応じた謝礼があるわけです。役員を辞めるときに任期に応じて、多くはないんですけど礼金が払われていました。協議会の運営費は、各町内が集めた、確か一戸当たり年に 2500 円か 3000 円くらいの町内会費のうち 700 円か 800 円くらいが協議会に集約されて年間 600 万円くらいと、それから市の補助金が 400 万円くらいで合計で 1000 万円くらいです。本来、ボランティアである自治活動なのですが、町内会長・役員になり手がないという理由で何年も居座る人がいるわけです。そこで、費用弁償は残して、永年勤続謝礼だけは廃止しました。それから、先ほどありました各委員会の運営も会議を開かないで各種団体の長が何となく例年通りに行っている例もあるようなので、そこには会議を開いて討議と採決をするように促しました。また各年の活動報告を必ず出すということを求めました。その結果、永年の経験者がぼろぼろ辞めていったんです。ところが、ちょっと虚を突かれたのですが「規約改正するんであれば、規約改正以前は古い規約が有効だろう。」と。「今までの規約が有効であるならば、自分は今年辞めるのだから謝礼は貰えるんだろう。」という論理を突きつけられまして、うんと思ひまして、そのとき 120 万くらい積立金が減ったのを感じています。理屈どおり言えばそのとおりです。まあ、しかし、これが良かったんです。ぼろぼろ辞めてくれたから若いと言っても中年以上ですが精鋭の町内会長や団体の長が出てきたのです。

行政の延長である公民館長と日頃から仲良くしていらしたので、それで、「公民館活動と自治協議会

の活動は、もうお互いに完全連携してるよ。」って言って公民館長と話し合いました。その例が、毎月の『公民館だより』と『自治協議会ニュース』の表裏合体です。表が『公民館だより』です。これは毎月出すんです。今年の3月の例で言いますと、老人会の高ノ宮学園ですとかレイクサイドフェスタが出ています。今年から始まった、一人一花運動。これはいわゆる、緑化活動ですね。それから、爽やかウォーキング。これは私の居た時に『健康日本21』という運動がありまして、そのときに、私のほうに「モデル地区として引き受けろ」って言われたんで、手を挙げて始めました。これが今も完全に続いています。

現在は隔月になって郊外に足を伸ばしているようです。それから、公民館サークルがあります。これが『公民館だより』のページです。その裏が『自治協議会のニュース』です。これは表にあったレイクサイドフェスタっていうのが写真付きで詳細に出ています。自治協議会でちょっとユニークなのが、「ふれあいパーティー」っていうのがあります。これが毎年行われているのが素晴らしいのです。その頃から熱心な人が身体に障害があるとか、発育上の障害があるお子さんたちを小学校の講堂に招いて小学生と一緒に混ぜ合わせて、200から300人で餅つきをしたり、食事をしながら発表会をしたり、歌を歌ったりたり、1日中いわゆる交流をするというのです。これは3月16日で、私が帰った後なんですけれども、予告です。青少年育成協議会という関係団体が主催をしています。さらに、ソフトボール、バレー大会の記事があります。こういった形で、今まで、なんと別々に片面印刷で発行してましたが、この二つを裏表にまとめたんです。それで、毎月7000戸に配布するわけなので、用紙代もばかにならないわけです。実は、イベント活動が自治協議会の主催なのかそれとも公民館主催なのか、ちょっと曖昧なようなぐらいに、今はもう、べったり一緒になってます。

それで先ほど、ぼろぼろ辞めていってくれたんで新人が躍り出てきて、議論が非常に活発になりました。その一つが防犯です。ひったくりや小学生に対する変質者の露出ですね。面白がってやるわけです。そこで、街路灯の増設を進めました。これは防犯・防災部会が町を明るくする運動ということで各町内会長に持ち掛けました。増電柱区役所に設置してくれるわけですけど、その頃、電気料は地区のいわゆる町内会が半額負担になってます。ですけど、非常に応募が多くて明るくなりました。さらに今まで防犯・防火見守りっていうのは年に2、3回拍子木打ったりしてやってたんですけども、思い切って100万円掛けて軽自動車を買って、その上に前後スピーカーを付けて安全パトロールを始めたんです。これはミニパト隊っていうんですけども、福岡市で初めてミニパト隊を始めました。朝は集団で登校しますが、小学校1年と2年ぐらいが3時に帰ります。それから、上級生の下校時の5時。毎日3時と5時。月曜日から金曜日まで、運転手と助手がボランティアで30分から50分町中を生徒を見たら「安全に」というような声を掛けながら回り始めました。早速、40から50人の応募がありまして、1年もしますと軽犯罪が6割ぐらい減ったんです。これは非常に顕著な効果でした。今も百人以上の体制で続いています。

次に、市が、公民館の隣接地にある農業用ため池。これ、先ほど言いました、小学校と公民館の間にある平尾池というため池ですけども、周囲が200メートルぐらいで下流の農業地は市街化されて、全く農業用水は使用されてないので放つてあったんですけど、フェンスを撤去して周辺に遊歩道を付けてくれると言うんです。これ、だいぶ金が掛かったんでしょうけど、区役所がそう言うんで有難い

とばかり、いわゆる平尾新池保全グループ緑水会というのを環境美化推進連絡会に設けまして、春秋の草刈りや落ち葉拾い遊水地の清掃などを始めました。毎年、取水路とか放水路のごみも浚いもしました。

それから、駄目だったのは防犯カメラの設置というのが出まして、意見が分かれました。経費が掛かる、それからプライバシーが問題っていう理由で反対されまして、結局、やめました。だから小学校だけ、行政がうけています。

次に簡単に各種団体の様子を説明します。30年度総会の資料から引っ張り抜いてきたものです。14の各種団体があります。交通安全、子ども会、体育振興会、健康づくり推進協議会、それから男女共同参画、青少年育成。環境美化、ミニパト隊、防犯・防災会議というのがあります。それから例年の、校区の祭り、夏祭り、敬老事業、大運動会。これらはもう、自治協議会か公民館活動か分かりません。シニアクラブ、更生保護女性会、保護司会、民生委員。そういうふうな各種団体が活動をされています。それで、実績報告を求めた結果、非常に、皆さん前向きに受けとって下さいました。自治協議会の活動とは別ですが公民館を利用して自主運営サークルっていうのが20以上あります。これは、少し会費を取ってダンスを教えますとかそれから詩吟や習字を教えますとかの自主サークル活動があります。それから今度は小学校の講堂とか運動場を借りて子どもたちのサッカーとか、バドミントン、バレーボール。さらに校区外にあります中学校を利用して対抗試合をするのがあります。それから、憩いの家っていうのがありますが、憩いの家っていうのは高宮の駅の近くに、昔、公民館があったのです。私が副会長になる2年ぐらい前に、今の現在地に倍増した建物を建てて、古いので撤去すると言ったので、頑張りましてそのまま憩いの家として残し、ほとんど今も終日利用しています。いわゆるサークル活動が盛んです。

私は最初単に町内会長で居住者の責任を果たすぐらいの積りだったんですけど、次第に社会参加を強めていったんですが、それは芸術工科大学の環境設計学科で藤原恵洋先生という方に地域づくり実務経験を学んだことが非常に大きかったと思います。

ここで、先生の略歴を紹介をさせていただきますが、先生は私と比べて25歳年下です。現在は九州大学の教授をなさっています。文化庁の世界文化遺産特別委員会の委員をされています。1979年に九州大学の建築を出られまして、それから82年に東京芸大の建築理論講座修士課程を修了されて、そして國學院の講師をしたんですけど、その後、東京大学の建築学専門課程の博士課程を修了して工学博士になられています。それで、皆さまご存知の藤森先生ですとか、赤瀬川原平さんなんかと東大のときのグループで一緒に町歩きをされたということで、親交がある方です。

この先生は九州芸術工科大学に専任講師で来られたのが93年です。私は95年か96年に聴講生に入っていますので、先生はまだ専任講師になって間もない頃です。それ以外の先生もみんな若くて。私が年取っているんで、非常にみんな大事にしてくれまして、研究室にも、自由に入れて頂きました。

●どっちが先生か分からない。

小田島 いや、全く、本当に真面目な生徒でした。先生は、地域の活性化に焦点を当てて文化論をな

さったんです。自治体や開発主体と連携して、まちづくりや地域の活性化に、いかに地域の歴史や文化を融合させるかを進めておられました。福岡市は、これ、赤レンガの古い建物があるんですが、今も文化財になっています。山口県の湯田温泉。それから、甘木市の秋月城。皆さんご存じの湯布院町などです。これらの地域計画を進める上で、自治体の要請を受けて大学生を連れて現地入りし地域と討議を重ねて立案したりアドバイスをするという、非常に実働的な先生です。

それで面白いのは、過去にオランダの植民地でありましたバリ島っていうのがインドネシアにございますが、そこの地域文化、ヒンズー文化なんですけど、オランダの植民地だったんで、オランダの影響を受けまして、非常にユニークな文化を形成しているんですけど、そこに大学生を連れて調査に行っておられました。このバリ島は、お寺の行事っていいですか、宗教行事や、踊りあるいはイベントなど村人が一斉に集まってきて、協力してでっち上げるんです。バンジャールという出入り自由の組織なんですけども、何かことがあるとわって寄ってきて、みんなで協力して事に当たるといふような習俗があります。それで、絵画ですとか彫刻とか音楽。ダンスですね、舞踏です。これらが非常に、オランダが伝統的な文化の保護政策を取ったために影響を受けながら洗練され、非常に独特な、変わった彫刻、絵画、音楽、ガムランとって鐘の合奏ですとか、舞踏も絵になるような変わった舞踏です。ですから、一大観光地になってます。私も、先生、大学院生と一緒に2度ほど仲間に連れて行っていただいたんです。大学生は卒論のための一生懸命やるんですけど、私は、むしろ観光しながら行ったわけです。非常にこれは面白かった。先生は2003年にライデン大学、これはオランダにありますけど日本文化研究センターの客員教授で、10カ月ほど滞在されてましたのが記憶に残ってます。

それから、もう一つは、福岡に来ているバングラディッシュの人を頼りに現地の村落形成の調査に行かれたことがあります。私はこれにもついて行った。最大の成果は、その町に病院がなかったんで、まず建物をと福岡を中心にして募金を呼びかけました。この程、やっと建物ができたということで、あとはお医者さんを入れるということだと報告がありました。私は大学の聴講生を辞めた後でも、引き続き先生がたの研究室に出入りさせて頂きました。

それで、先生が特に力を入れていたのが、八女市なんです。八女市というのは、福岡の久留米の東側にあります筑後平野の真ん中で、もっぱら農業を中心の市です。八女茶っていうお茶の産地です。それで、どちらかと言えば辺境地になるんですけど福島町に、明治時代、100年前前に建てられた大邸宅を借り受けまして、木鶏書院と名付けて、自身も住みながら地域活動を始めました。それは、大きな古い木造建築で太い長い垂木でがっしり支えられた広間続きの大邸宅で、地震や台風に強いのです。先生はそこを一生懸命に整理して書棚を造って自分の書籍を持ち込んで、研究室ながら会議室やゲストルームに利用して大活躍でした。そこを拠点として農家とかお茶を作る方あるいは市役所の若手を集めて「めだか塾」というグループを立ち上げまして、街道沿いの町並み保存ですとか、公園や音楽堂、それから地域ニーズに合わせたさまざまな計画を進められました。今、旧街道沿いに、非常に立派な町並みが残ってます。それから、地元の高校生と一緒に連れて、ずっと歩きながら、何が問題か何が必要かを討議する、そういうふうな社会探訪をなさって地域のニーズを探っていました。私もついて参りました。先ほど言いましためだか塾の人を中心に、木鶏書院というその場を拠点にしなが、地元の人を育てていったわけです。

たまたま公民館長が八女市の出身者だったので、2 度ほど先生を高宮公民館に呼んで先生から講演をしてもらったことがあります。先生は、「人々はどうやって地域に関心を持つのか。その活動に参画することが本当の意味で自分たちの為なんだ。」と。「町の整備ということは、それなりに必要なんだけど、どうやって町の人を引っ張り込むかっていうのが大切だ。」と力説されたんです。それで協会とめだか塾が姉妹提携をしまして、毎年高宮の人が八女に見学しに行つて農村体験をしたり、土地の産物を利用した食事を頂いたり子供を連れていって河原遊びをさせました。今でも夏祭りとか、新池祭りとかいうときには、八女から野菜を2 台ぐらいトラックで持ってきて即売会をしています。ということで、今でも交流が続いています。

余談ですが私がいたときに、家庭に残っているワインを皆さん持ち寄つて、「ワインの夕べ」としてピアノ演奏を聴きながら懇談する場をつくったんですが、これが非常に皆さん好評で、70 人から100 人ぐらい来て、わいわいがやがややります。

私がいた今年の2 月に実際に参加したレークサイドフェスタと新池パーティーを説明します。公民館年間の成果の発表の場がレイクサイドフェスタです。これ、レイクサイドというのと新池っていうのは全く同じ池です。池にかこつけたいろんなイベントが開かれている訳です。

このレイクサイドフェスタっていうのは今年も中学校の吹奏楽団を招いて、池の湧水広場で演奏してました。それから、公民館の中には、この一年の成果、絵画ですとか、俳句ですとか、習字だとか刺繍とか貼りだされ、大きな講堂では、朝から晩まで先ほどありました自主サークル活動の発表が披露されます。私も昔、社交ダンスをしていたので女房と何度か出てました。各種団体が屋台を出してサービスしてました。大勢の人で大賑わいでした。

それから、もう一つ。新池パーティーっていうのがあります。これもやっぱり、2 月24 日にあったのです。私は初めての参加でした。男女共同参画事業の主催です。男女共同参画の法律ができたのは平成2 年です。そして、それから2 年ぐらいしてようやく地区で発足させたのを覚えているんです。当初、私がいた頃は、団体をつくって間もなく、とにかく男女で研究会と研修見学旅行を計画したぐらいでした。それが新池パーティーとして、なんと、年4 回開かれています。その他出席者は約70 人以上6 割が女性でした。会長挨拶で4 年前から新池パーティーを開催しているとのこと。私は辞めてから、もう10 年なるんですけども、辞めてから5 年ぐらいしてやっと自分たち本来の事業を始めていたのです。当日の新池パーティーはお琴の先生が自分の弟子たちを呼んできて小一時間お琴を聴かしてくれました。その後10 人ぐらいずつグループ分けしまして、各グループで論議をするわけです。その日は『男は今でも強いのか、女は今でも優しいか』とか『もしも大統領になったら何をするか』。など四つぐらい題を出すのです。グループで一つを選んで論議して、最後にグループの代表がまとめて発表するっていうんです。これ、実に面白かった。

まあ、非常に、これはもう変な話ですから、オフレコで結構ですけども。話しているうちに、政権批判をする人もいて、それは議題から外れてというようなことで。とにかく自由な討論がなされました。私は男女共同参画事業がよく育ったなという感じで会長にエールを送りました。その後、花いっぱい運動も盛んですし、道路も清潔で掃除がされています。老人会も非常に盛んです。東京も老人会は盛んです。活発です。

●東京はどこにお住まいですか？

小田島 田園調布です。名前は田園調布ですが、高級住宅街から外れた普通の住宅地です。

小田島 それから、子ども会が盛んです。資源ごみの回収が月1度なのですが玄関前に出しておくと、子供たちが台車を持って集めて回ります。もちろん親も係わってますが町内の資源ごみ、新聞紙とかアルミ缶が僅かですが収益になるんです。それが子ども会の経費になってユニホーム作ったり各種道具を買ったりしまして、サークルの活動の費用にするのです。この地域は小学校の評判がいいんです。これは多少、高級な住宅地であったというのも事実ですので、決して私たちがやったから良くなったわけじゃないんですけども、マンションが続々建ってまして、それで小学生徒が増加して、私の子ども、これは、実は40年前なんですけども、そのときに1学年が3クラス、今は1学年が5〜7クラスになっているそうです。倍増になってます。私がいたときに校舎が増築されたんですけど、また教室が足りないようです。運動場も狭くなって午前と午後使い分けしているとのこと。非常に変則的なんですけど、背に腹はかえられないということです。

それで、ちょっと時間過ぎましたんで、恐縮です。実はこれ、これからが本論だったんですが、私が地区を離れていきます。その理由は、一つは心臓が悪くてセカンドオピニオンで手術をしなきゃならないというのもあったのですが、もう一つ組織がヒエラルキー化していくことに気がきました。みんなが初心で目標を目指しているときは一生懸命で、意見を出して、「よし、それでいこう。」と協力し合ってたんですけど、だんだんうまく転がっていくと、思考力の浅いような方が長になりたがるんです。外部も同じなんです。先ほどありました、パトロールカーですけども。これも各協議会がまねて、4年ぐらいしたら全地域にパトロールカーを置くようになったんです。と、今度は、警察が有難いことですが、車上の上に乗せる青いピカピカの表示灯を下付してくれるなど便宜を図ってくれるんですけど、次第に乗り出してきました、運転者に届け出制を引いて、今度は運転証明証っていうのを発行し始めたんです。「免許証があるんだから、要らないじゃないか。」と言うんですけど、「いや、パトロールの運転者を把握するため運転証明証を出すんで止める時は返してくれ。」と厳格に傘下に置くんです。それから、軽犯罪の減少も警察のほうは自分の功績のようにPRしました。それから、区役所も有難いんですが、軽自動車の本体は毎年積み立てた予算で買うのですが、車検の費用もばかにならないんです。その費用を補助するようになったのです。しかし今度は色々行政が顔を出すんです。また折に触れ表彰状を出すのです。行政の方がおられるんで非常に申し上げにくいんですけど、私の相棒は「あなた、そこは我慢して付き合わないとならんと。」と言うんですけど、だんだん気に障るようになってきたんです。公民館長が定年で辞めて八女に引っ込んだのを機に私も病気を理由にして、東京に出てきました。

3年後、手術をしたんですが、それから約7年たつわけです。時々福岡に帰ってましたけど、あまり地域とは話をしなかったんです。今年の2月に歯の修理で、ちょっと長期に滞在したんです。そのときに、路上で以前花いっぱい運動に活動していた婦人に散歩の途中出会ったんです。そうしたら、

「懐かしいわ。」って向こうがものすごく言うてくれるんで、女房と2人でそのうちにお邪魔しました。百坪ほどの。本当に、2月、3月だったのですか、花いっぱいでした。それで、鈴なりになっているレモンの木の下で手創りケーキと、お茶を戴いて「今、活動どうなさってますか。」と話を向けたら、「あんまり面白くなかったので、2年前から手を引きました。」って言われるわけです。そうつぶやいたまま、それ以上言われないうで、もう、何も言わずに帰ってきました。

帰って、私の後に青パト引き継いでくれた人に電話しまして、「どうなっているんだよ。」って言ったら、「私も後輩に譲ったんですけども、今、私は青パトの運転手だけやっているけども、もう他は全部手を引いた。」って言うんです。いろいろ話を探り入れましたら、私が東京に来た後、先ほど言った住友での会長が引いて会長が交代をしたそうです。その新しい会長が最初は良かったんですけども、次第に会長職に執着するようになって、今年の3月まで5期10年続けたそうです。それで「さらにもう一期」と2月に言い出したんで、皆が「もう、あなた80じゃないか。」と。「もう辞めろ。」と声高に迫ったところが、「ほんならお前らも辞めろ。」ということで、結局、役員もろとも全部辞めるようになってしまったということです。みんなが呆れているときに、経験の浅い町内会長が手を挙げて、あつという間にその方に決まってしまったと。今後どうなるか皆が注目しているところなんです。日頃ちらちらとうわさは聞いていたというのは、実は私の家には、私は息子夫婦を引っ張ってきてまして、そして、その子ども2人が西高宮小学校なので、息子の嫁さんがPTAだとか子ども会とかに一生懸命力を入れるのを見てほくそ笑んでましたので、まあ、暗に会長が辞めないという話は聞いてたんですけど、みんなが呆れるほど続けてしまうとは思わなかった。規約にも任期の年限を入れてなかったんで、虚を衝かれた思いです。現地で相談を受けたんですけども、もう、それは静観しておくしかないんじゃないかと言いました。

この4月に総会が開かれたわけですので、その資料を送ってもらいました。それで、その資料見ましたら、会長が7名で全員新人でした。うち6名が西高宮から出て一人だけが市崎からです。そして平和がゼロです。ちょっとこれは偏っているわけです。所帯数で言うと2対1対1なんです。経験のない町内会長さんが会長になって自分の知り合いを集めたのではないかと思うんです。でも、幸いなことに、いわゆる活動計画も予算も前年に習って非常にしっかりできているんです。これは前年に習ってやったなと思ってます。

中に1人、先ほど八女出身の公民館長の時の主事をなさっていた方が副会長で入ってます。女の人です。この人は次の公民館長に推薦したんですけど駄目だった方です。ああ、この人の筋でいってるなと思いました。

小田島 自治協議会の活動について感じることを述べて見ます。自治活動で、リーダーには聡明で本当に無私の人が必要です。男女係わりなく、そういう人たちが担いでくれれば最高です。地域活動を振り返ってみれば多数の大集団ですから個人の力は知れている。しかし意欲を尽くせばその分だけ歯車は廻ると思います。どうしても長期化すればマンネリになって思考が鈍るし、挑戦しなくなる。大体、いいとこ4年ですね。長くて6年だろうと思います。基本的にはボランティアが原則ですが、個人の榮譽欲とかわずかな利得が発生する。市で何か行事があるときにお呼びが掛かる。新年パーテ

イーお招きがあり、知名士になった気になる。本当に「ううっ」と思ったんですけど、パトカーを買う時、自動車会社が会長や会計など関係者を密かに接待していたのです。後でそれを知りました。わずかな利欲。そういうのが出てくるわけですよ。

次に問題なのはともすれば予算処理の効率化が見逃されるわけです。実績の本当の吟味と反省がなされない。実は、これが悪いと思うんですけど、それぞれの総会で、監査報告書っていうのがありますね。「以上のとおり監査しました。」と、印鑑が並んでいるわけです。監査報告書っていうのは、帳尻です。金をどのように効率的に使ったのか踏み込まないで「しゃんしゃん」で終わっているから内容に踏み込めない。だから本当は会計監査だけじゃなくて活動について自由な論議が必要なのです。自由な発言ができにくくなったら衰退だと思います。

でも西高宮は各種団体が非常に自主的に力を持っています。それから、町内会長の活動が活発でブロック間の連携も行われてます。子どもたちの1割ぐらひは子ども会に入っていないんです。自由です。何割かは廃品回収に出していないかもしれない。でもいつの間にか子どもにも集団意識ができています。それから、清掃活動が非常に子どもの身についているように思います。また子供会で対抗試合にでていますので、上下の関係が相互協力的です。学年が違っててもグループ活動ができるということです。いつの間にか集団意識と集団活動が育って行われてます。親子の出番も多い。それから、親同士の連携も、輪が広がってます。これはもう、簡単に崩れなくなってきてます。そういうことで、今の役員会がよたよたしても暫くのことです。混乱は起こるべくして起こったと思います。役員の新陳代謝によって一時は停滞することがあって良くはなっても悪くならないんじゃないかと思っています。人事の偏りはちょっと気になるんですけども、その10年体制をぶち壊したのが何よりの成果じゃないかなと思います。皆が目標に向けて活発に活動すれば新風が生まれてくるんじゃないかと期待しております。

ちょっと20分ほど過ぎましたが、都会の「隣は何をする人ぞ」に比べるとまだ地域のほうが纏まりがいいかなと思っているっていうのが本音です。長くなりました。以上でございます。

●じゃあ、私からご質問させていただきます。小田島さんが大学で学んだ、藤原先生から学んだことと、高宮の町内会でいろいろとされたことというのは、どういうつながりがありますか。

小田島 そうですか。それはですね、木鶏書院の活動が参考になりました。先生は、地域に足を運んで具体的にそこでどんな問題があるのかっていうのを知るのに中学生とか高校生を朝早くみんなと連れ回して、いわゆる問題箇所を指摘するそういうことをやってみました。特段に文化財や遺跡を意識しなくても地域のニーズを掘り起こすことです。必要なものは自分たちで、あるいは行政に話すとかして、改善されるわけです。地域に足を運んでいく。地域に自分N03を目線でものを見るのが基本原則です。学問的に大学院の学生をバリ島の文化を見せる。それから、バングラディッシュの農村の実態を見るというような、地域の文化を問題視して環境設計するのが大筋です。山口県の湯田温泉に行って町おこしグループと論議して温泉をどうやって活性化に役立てるかのアイディアを出す。今度はお城のある町に行ってその、秋月城っていうんですけど交通の要所ではあるのですが通過地域ですが。

活性化の為PRを考える。その地域のニーズを拾ってそれに対して考える訳です。一番その最たるものは、八女だったんです。

私は高宮で地域の文化や歴史を反映させた街づくりといっても取り立てる文化遺跡も無いです。そこは居住区域としてどうするかというのが一番大切になります。ごみ問題、路上の危険などですがそれにかかわっているのが自治協議会だなと思いました。そして入ってみると巾広く活動していますがマンネリに流れているところも気が付いたんです。それですので、結局、青パトカーを走らせるとか、池を因縁づけました祭りですとか、あるいは、清掃ですとか、子ども会ですとか、そこにあるものを発展させるということが本質的な意味での地域づくりだなというふうに感じたわけです。

それで藤原先生も非常に細かいんです。八女はほとんど農村地域です。その農村地域のお百姓する人とかお茶を製造する人たちの若手の人たちを、やっぱり、毎月集めて討論しながら八女風な目線をもって解決されたのです。八女っていう所に行くと、本当に面白いのは、町の整備ができていうことです。小正月のドンと焼きは校庭に山の様に積まれた正月飾りが燃え盛りますが翌朝には跡形もなく整備されています。畑の土と入れ替えられているのです。先生と一緒に藁を担ぐような方です。木鶏書院っていうのは、去年の暮れにその建物を前の家主さんに返して解散しました。先生はもう、全くそっから手を引いたんです。ですけど、まだ、めだか塾っていうのは相変わらずそのまま残ってまして、そして、めだか塾自身が地域のニーズを掘り起こしてます。そういうふうな意味は、農村は農村なりの、それから、住宅地は住宅地なりの問題点っていうのを洗い出して活性化するというのが地域参加じゃないかというふうに私は思ってます。我田引水で答えになっていないかもしれません。

●大学の藤原先生の下で小田島さんは学ばれたわけですね。そうすると、いわゆる専門的なものというのはどういう部分にあるのでしょうか。

小田島 正規には2年環境設計学部で建築デザインに関する講座を受けました。ヨーロッパの建築デザインの変遷から日本の建築様式の展開です、さらに都市計画で広場や建物の配置及び道路の機能です。その中で先生の芸術情報設計で文化財や歴史建造物を如何に都市環境に融合させるかを学びました。きっちり単位を取るのです。研究室に大学院生が6名か8名ぐらいおられます。それから大学生も出入りしています。各地の立案企画に行かれたっていうのは、大体大学院生を連れて行って、実態調査を踏まえて問題点の指摘と改善プランを出させて討議して立案まで持っていく訳です。ですから、大学院生は非常に一生懸命にやりました。私は、大学の聴講生ですから基本的なところが限界です。先生に誘われてついて行ったのが多いですけどね。でも、そう言いながら、なるほど、実体的に足を運んでその目線でものを見るっていうのはということかというのは分かりました。ご質問の回答になっていないのかもしれませんが

これは自分で経験をしたお話をします。環境レイアウトという形で建築の美っていうのを古い形の通りに理解していました。パリに行っているいろいろ通りを見たり、あるいは広場に出たりして関心持って見ます。ですけど、そういう意味の講義は非常にたくさん教えてもらったのですが、貴重な経験をしました。それは昔大学のときにドイツ語だったんですけど、これはもう、本当に可を取りそうなレ

ベルでしかなかったんで、今度はフランス語だと思って。これは一生懸命やったんです。フランス人の先生とも仲良くなりまして先生が九大との併合の際止められて、その後世界のCMフェスティバルという映像を深夜劇場で上演するのを最初から手伝っていましたが、先生のパリのアパートを1か月位4,5回借りて行ったことがあるんです。女房や子供や孫を連れてフランスを旅しました。話はその2DKのアパートです。凱旋門からルーブルの反対側に1キロくらい行ったPonceletという地下鉄駅のちかくです。アパートの属する建物はどんとおおきな木のアーチ状の開きドアが通りに面しています。トラックが優に入る高さも幅もある厚い扉ですが、その右に小門がついて暗証番号で開けるようになってます。中に入ると、大きな石畳みの中庭があります。その先にまた中くらいの中庭が、さらに奥に小さな中庭があります。3つの中庭には仕切りドアがついていますが日頃空いたままです。丁度四角の敷地を角を結ぶ対角線でクロスさせたその一つの三角に合わせてように中庭が奥へと繋がり、それを取り囲むように6階建てのアパートが建っています。入口の右手一階に管理人の家族が暮らして受付窓があります。左手一階にはゴミ置き場と郵便受が有り、やや広い集会場があり日中ダンスなどのサークル活動に利用され、夕方はコミュニティなどに利用されています。ごみ収集車や引越しの際表門が開かれます。先生のアパートは一番奥の5階です。6階建てなんですけど、広い中庭の方は広いアパートと思うのですが、矢張り螺旋階段です。その螺旋階段は細くかなり急です。窓は全て中庭に向けて開かれています。背後は全て壁です。電気とガスが完備されて環境は静かで住みやすいです。中庭では子供たちや奥さん方の立ち話が見られました。私が感心するのは表通りに面して実にうまく土地に合わせて配置され、凡そ80戸くらいの方が、この一角にまさにコミュニティを形成しているのです。安全に閑静に清潔に皆が努め、ごみの分別処理も確実でした。管理人も良く目を配っています。日本のアパートが外に開放的なに比べると実に内向きに形成されています。パリの町中が門扉ばかり連ねていると思っていましたが、そのコミュニティの在り方は得難いものだと思います。

●町内会の活動に最初に参加されたのは、28ある町内会のブロックの中で最初始められたのですか。

小田島一 町内会長をしながら各種団体のメンバーになっていて各種行事に出ている訳です。町内会長と各種団体の長は兼務出来ません。自治協議会の役員も専任です。会長、副会長総務、会計、広報です。従って私は町内会長から役員総務になってそして副会長になったのです。

●役員になってくれと。

小田島一 町内会長をしながら地元の子ども会に所属してました。どちらからといえ自分から進んで総務になりました。

●なるほど。

小田島一 子ども会っていうのは、別に自分の子どもがいたわけじゃないですけども。もう、大学生

になっちゃって出て行ってますから。でも、一番手近なのは廃品回収。それから、近所の公園の草むしり、それから、対抗試合のときに出て行って応援する。町内会長は各月の役員会に出ることと配布物と回覧板の各組への配布、それから掲示板の管理です。子ども会の会長になったわけじゃないです。

●ちょっと僕は、確認したかったのは、副会長になられてから、結構過激に活動されてましたよね。だから、どこで問題と出会ったのかなって言うことですが。

小田島一 ちょっとそれは何時からかはっきりしませんが、いま振り返ると。自分の人生を考えまして、九州電力に勤めて原子力発電開発を5基分を電源立地部で仲間と土地収用から漁業補償へと立地ばかりやらされたわけです。極端なことを言うと、あいつは立地屋っていう言い方なんですけど。そういうふうになって、あんまり出世しなかった。関係会社に出されたのは54歳ぐらいのときです。関係会社っていうのは、九州通信ネットワークっていう通信会社があるんです。NTTやKDDIに対抗して九州管内でモバイルをやっている通信会社です。その会社の設立準備委員に出されて、それで、4年間かけて九州通信ネットワークを立ち上げて、そしてその後、4年間ひっくるめて8年間世話になってたのです。それで退職したわけです。今はなんと700人の企業になっているんですけど、私がいたときは80人から100人ぐらいが限度で、小さな交換機を持って、九州電力の送電線を利用しながら光ファイバーを張って行って企業の専用線から始めました。企業の勤めのときには、真面目だったけどあんまり楽しくなかった。本当に胃袋に酒を押し込んで相手が酔っ払うとき、こっちは酔ったらいかんというような、漁業補償っていうのは、本当にどうやって相手を抱き込むかですから。

●いや、同じようなことやってますから。

小田島一 お分かりですか、胃袋を提供してきたようなものです。それで、辞めてから後、裏庭を耕して野菜作りしたんです。それで、とつてもじゃない、鍬なんか持てないのでヤンマーのディーゼルの耕運機を買ってきてダダダって30坪ぐらい耕して、野菜作ったんです。それで、無農薬でやろうって挑戦したんです。これ、とつてもじゃないです。無農薬っていうのは細かく虫が付かないように、本当に一週間ごとに草むしりやらないと駄目。翌年ちょうど3月ですか。ああ、これじゃあ、しょうがない。何か勉強をと思って九州芸術工科大学に入ったんです。それですから退職後が本当の人生が始まったのです。そこで次第に地域活動が面白くなった。町内会長の時公民館長と知り合いました。彼は東芝の出身で懐の深い男です。自治会長には応募してなったようです。二人で話が合うので、バングラディッシュに行ったときは彼も誘って行きました。結局今まで義務に迫られてやってきたのに解放されて、自由な発想で事が運べる社会活動に魅せられたのかもしれない。本当に芸工大が楽しかったんで、その延長でやっぱり地域活動が楽しかったんです。

●すいません。基本的なことなんですけど、私、福岡っていうと、お祭りがすごく盛んな土地柄で、そういう伝統的な町だと感じがします。この西高宮っていう所は、そういうお祭りとかは、全くこの

中に出てこないんですけど、これとは違う所でやるんですか。

小田島一 良いご質問です。校区では8月の初めに夏祭りっていうのを校区あげてやっています。盆踊りです。小学校の校庭に昼間は子供向けのお化け屋敷。夕方から櫓の上で太鼓に合わせて踊ります。各種団体の屋台もでて校庭一杯になります。ですが何ていうかニュースなんかで出てくるような、福岡の8月の祇園山笠祭りや5月の博多ドンタクなどお祭りに関係するものではありません。ただ、先ほどありました高宮の理由は何かと言われて、高宮っていうのは高宮八幡宮という神社のゆかりの地です。由緒あるお宮ですが誇り高く以前から氏子を中心に活動しています。高宮宮は毎年お祭りをしますし駅前の商店街が同調しています。子供神輿が通りを練り、各家庭にお布施を貰いにきます。それと正月の初詣は賑わっています。でも地域活動とは余り接触はありません。

●もうちょっと、全然組織的じゃない感じですよ。横浜でもそうですし。

小田島一 そうですか。

●他の市町村でもそういうふうに、地域のつながりをつくろうということでやってらっしゃると、そんな変わらない感じですね。

●それで、もう一つ細かな話ですけど。いろいろと聞きたいことはたくさんあるのです。小田島さんが副会長さんになられたのは、この西高宮の自治協議会という所の副会長さんになられたのでよろしいでしょうか。

小田島一 そうです。町内会長をして、役員の総務をしてそして副会長に就いたのです。

Eーそれで、先ほどおっしゃったように、地区ごとに公民館が1館あって、その学校区かな。校区っていうのが自治協議会と同じエリア。全市では例外があるかもしれませんが、近傍は同じです。

●そうですね。それは、福岡市全体で見たらば、この自治協議会はたくさんあるのですか。

小田島一 そうです。南区に26か所あります。従って自治協議会がおのおの校区ごとにあります。

●そうですね。名前が変わっているみたいなのですが。例えば、横浜市だと自治連合会っていうのがあります。

小田島一 自治連合会は南区自治連合会で26の自治協議会を統括しています。

●それで、例えば、この例で言うと、一番、市の連合町内会っていうのがあって、各区の連合町内会

ってというのがあって、その下に地区ごとに連合町内会ってというのがあって、その下に町内会って、こういうブロックで書いてあるような区ごとみたいな町内会ってというのがあるといいう組織になっているんですけど、そういうイメージで組織的にはいいのですか

小田島一 町内会は直接市と繋がっていません。非常に単純に上部機関の協議会に任せています

●横浜市の場合には学校区との連携になってないのです。

小田島一 非常に単純なんです。高宮自治協議会、それから平尾自治協議会、何協議会。南区の協議会を全部集めて自治連合会と名前付けているだけです。連合会は、こちら側に自治協議会にいろいろ注文はつけませんが、行政が「一人一花の花いっぱい運動をしようよ」って言って、行政が公民館をつうじて言ってきます。それを、結局、受け取るのは環境美化推進会議が受け取ってる。どっちかっていうと、自治協議会のほうがどうするか決めています。公民館のほうは人数が少ないですからね。館長と主事と、あと、4、5人の臨時の方が。ですから、やはり自治会館の中だけの活動はできますけど、地域活動するには自治協議会の各種団体を使う必要があります。

●それで、いわゆる公民館っていう名称は、いわゆる文科省の傘下っていうか。

小田島一 はい、自治省、今は総務省の管轄ですか

●この公民館っていうのは、市の組織ですか。

小田島一 はい、そうです、区の組織です。

●建物も人間も、館長さんと主事さんは現役の職員。

小田島一 はい、公務員です。市の職員扱いです。

●例えば横浜市なんか、地区センターっていうのがあって。例えば、建物は市のお金で造るんだけど、その管理っていうのはOBさんとか地域から頼まれてなるような、そういう組織なんですね。

小田島一 でもねえ、やっぱりここも、公民館長はみんなが支持されないと務まらない。公民館長は、町の人の意見を聞いて選出されるようです。天下りに来るといいう訳ではないです。事前に自治協議会で推薦する時もありあます。小学校の校長先生がなっていたケースがあります。

●給料は市からもらっているんですね。

小田島一 はい、そうです。全部市から出てます。

●そうですね。全般的に見てみると、わりあいと公的な組織と私的な組織が混然としているなあって思ったんですね。横浜市はもうちょっと違うところが。

小田島一 でも、横浜のほうが難しいと思いますよ。やっぱり大都会だからですね。ここに初めて来ました。ああ、随分立派な公民館だなあと思った。市民センターなんですね。福岡の公民館はあんまり大きくないんです。この部屋の4倍か6倍ぐらいの2階建てです。

●私もいろんな公民館見てますし。

小田島一 そうですか。

●現役のときには、勉強会みたいな所をつくって。地区センターと言ってた。違う種類のそういう施設を横浜市が造ったんですね。その利用実態を調査したことがあるんですけど。だから、どういうものかとか、公民館が各地域でどうなってるのか、やってらっしゃってるかっていうのはある程度見て歩いたんですけどね。

小田島一 ですから、ご覧になったように各種サークルも公民館を使い、各種団体も公民館を使い。囲碁、麻雀は憩いの家でやっているようです。

●それで、福岡のもそうだと思うんですけど。いわゆる習い事をやるような所があるじゃないですか、組織で。ビルの一角借りてやるような所と。そういう所とは競合しないんですか。

小田島一 ちょっと、どうでしょうか。公民館だから来るというのもあるんです。小学校の算術教室もあります。無料です。高学年と低学年。午前と午後。

●要するに、民間でやるという意味でしょう。

小田島一 ええ、民間でやることが多いです。

●カルチャーセンター的なものと、ここに挙っているような教養講座。

●それは、どこでも一緒でしょう。

●横浜だって、同じようなことやっているでしょう。

●やっています。

●僕が囲碁やるでしょう。地区センターで、ただで使える。だけど、そこで、地区センターでやるグループとそれから囲碁教室みたいなのはプロが運営している所があるじゃない。それはお金がずっと高いんだよ、そこは。だけど先生を置いて人集めして会費もたくさん取って。

●指導碁とかやりますよね。

小田島一 例の各種サークル活動。これは、お金も安いんですよ。あんまり高いのはないんです。精々月2, 3千円です。

●会費とっても大丈夫。

小田島一 囲碁もありますよ。それから、ここに書いてないけど。

●だから、基本的に公民館は横浜では地区センターがほとんどカバーしているということで、ちょっと、お聞きしたいのですが。問題はボス支配みたいな話ですよ、一番の問題は。ここでも役員の新陳代謝によってということが書かれてるんですが、具体的に役員を変えていく。ロシアのプーチンみたいなにならないように、本当に。大体どこの規約も、何期何年だって大体入ってないんですね。

小田島一 書いてない。

●逆に言えば、そうなっても、ボスみたいな人が出てくると勝手に変えちゃうわけですよ、取り巻きもいて。あなたに代わる人はいないみたいな話になって。だから、その辺の役員を交代させていく、順番に。

小田島一 システム？

●システムをなんか考えられたことがあるんですか。

小田島一 ないです。それは、知性の問題かなあ。

●町内会はボランティアだから、ないですよ、何年っていうのは。組合みたいな、いわば財産も共同で対応していかなくちゃいけないのは規約の中で何年って押さえとかないと、さっき言った。

●使い込みがでたらね。

●まずい話が出ますからね。でも、協議会の中で規約委員会つくったっていうのは、これはすごい話・・・。

小田島一 そうですね。割合と理屈をこねるのが好きで

●・・・だなと思って、だから。

小田島一 ですから、成功でしょう、これは。ぶつつぶしたのは。

●だから、どこで、こういう問題を捕まえたのかなあとと思ってね。これ、協力した方も大変だったと思うんですよね。

田村 そこで聞きたいのは、東京大学法学部を出たときに、そういうことを考えたかどうか

小田島一 ちょっと全くないです。余談ですけどね。私、兄弟7人の中から2番目です。それで、おやじ一人に給料に戦時中から9人で飯食ってた。それですから、大学に行ったら寮に入りました。食うのが大変だった。ですから、もう、家庭教師二つを掛け持ちして、留年しないように可を取ってもとにかく通過できるように。ですから、大学出たときにほっとしました。日立を受けて落ちて九州電力が拾ってくれたんです。だから、九州電力に文句言うつもりないんです。今も有難いと思ってます。

●藤原先生の履歴書の中で、1994年の所に書いてあるとおりに、赤煉瓦ネットワークの顧問を務めておられました。

●赤煉瓦ネットワークという組織があるんですよ。

●横浜も、これ、入っているの？

●はい。

小田島一 これはですね、赤れんがっていうのは、福岡の中洲に。赤煉瓦の素敵な建物があるのですが、確か大同生命のビルです。先生は強力に保存に努めました。今会館になっています

●はい、知っています。

小田島一 知ってる？

●見たことがあります。

小田島一 あの建物を保存したとき、藤原先生が主導者です。

●そうなんですか。それは、存じ上げなかったですけど。

小田島一 はい、ですから、自分で、あの赤れんがについてはものすごく執着があるとみえて何度も講演会を開いていました。今その隣にも明治の古い文化財があるんです。初期のまちづくりの成果です。

●はい、それで、赤煉瓦ネットワークってご紹介しときますと、例えば、京都に舞鶴っていう所が、今、煉瓦で有名になって、まちづくりに使っているんですけど。その保存活用なんかも、私たちネットワークがお話をして、そこで会合をやって、それで市長さんがその気になってやり始めたっていうことなんですね。日本中に6か所。

小田島一 あるんですか、そうですか。東京駅がそうですね。

●東京駅は違う。

小田島一 そうでない？

●あれは入ってないです。

小田島一 ないですか。

●本当に自分たちが一生懸命やって保存をしようとして。

小田島一 なるほど。各地に。

●そういう所にお手伝いに行っている。

小田島一 ということは、あれですか。各地の赤れんがが連携しながらネットワークつくっているん

ですか。

●そうです。だからネットワークです。

小田島一 いやあ、そうですか。初めて知った。

●それを田村さんが、熱心にやっているんですよ。

小田島一 そうですか。

●それで、最初にその横浜で口火を切って。

小田島一 きれいだもんね、うん。

●横浜で口火を切って、そういう団体をつくった。

小田島一 そうですか。

●今、もともと、横浜へ見学に来られたときに。

小田島一 そうでしょう。

●それで、横浜でもあるならうちでもやれへんかなあっていうんで始まったんです。それで、舞鶴ね。

小田島一 それは、横浜は、この地域をやった飛鳥田さん。

田村 いや、だからね、今、その話聞いて明の話によれば、飛鳥田さんは「おい、なんだ、あんな赤煉瓦、も残すのか」って言って。

小田島一 そう？

田村 うん。それを、明が「当たり前でしょう」って。「これは、残すべきものですよ」って言ったっていう話を最初に聞かされたから。

小田島一 そうか。

田村 だけど、それがネットワークになる時間差が、僕はよく分からないから。明がそういう考えを持った理由っていうか、その前になんでそういう感覚があったのかっていうことについて、まだ調べてないんだよね。

●でも、多分、田口さんが「みなとみらい」のことを調べていた中で分かったんですけど、なんと、田村さんが一番最初にみなとみらいの提案されたときに、描いた図面には赤煉瓦倉庫はつぶすことになっていました。だから、その後に、赤煉瓦倉庫を残そうっていうことを逆に。コンサルさんに出して、そっちから提案した？。

●そこも、あいまいだけどね。(文責：遠藤包嗣氏)

●あいまい……

●間違っているのです。田村さんの後、細郷市長が赤煉瓦倉庫含めた、みなとみらい全体のプランをまとめていったときに、大高先生が委員会になったのです。大高先生の委員会で、この方が中心の委員会でも土地利用構想をつくって、その中の文化遺産として赤煉瓦を大事にしようと。取りあえず大事にしようで止めてあったのです。(文責：遠藤包嗣氏)

小田島ー いや、恐らくそうでしょう。

●基本的に、これは大蔵省の財産だし。エリアは、運輸省のエリアだったから。(文責：遠藤包嗣氏)

●そうですね。

●勝手な土地利用は一切できないんです。次の高秀市長になったときに、関西で地震があって、古い建物ほとんど壊れたんです。(文責：遠藤包嗣氏)

小田島ー そうですか。

●神戸もやられてますから。だから、そのときに、赤レンガ倉庫をどうするかっていう議論の前に、まず、耐震性をやれというのが高秀市長から出てきて。耐震性がある程度めどが立ちそうなタイミングで活用についての議論をした。(文責：遠藤包嗣氏)

小田島ー なるほど。

●だから、外の団体がいくら議論しても、全然それとは無関係にみなとみらいのほうは、飛鳥田さん

から田村さん、そして細郷さん、高秀さんっていう形でみなとみらいをどうするかっていう議論の中で赤煉瓦の位置付けを継続的にやってきたんです。(文責：遠藤包嗣氏)

●そう、そっちの話になっちゃうんだけど、臨港幹線の絵を描いていたじゃないですか。僕らもそれに加わって、それが考えると1980年代ですよ。そのときに、基本的には赤レンガ倉庫を残すという前提でそこを地下に持っていくとか、いろんな議論をしてたんで。そのときから、一応、なんか、赤れんが残すっていうのが基本みたいな議論にはなっていた。

●結局、一番最初のマスタープラン、さっき言った細郷さんの時にスタートした、その前は、田村さんがいた時代に研究会始めてますから。赤れんがは保存と活用をちゃんと考えようっていうところで止めたんです。(文責：遠藤包嗣氏)

小田島一 いいことを聞きました。僕は、この藤原先生去年ご夫婦で来られたときに、田村さんのお兄さんの話をしたんですよ。そしたら、「いやあ、田村先生は大先輩ですよ」って言われたんですけども。逆に言うと、福岡の赤れんがをあんなに保持しようとしたのは、この赤煉瓦ネットワークの中にこんな早く入ってらっしゃったその延長かもしれないね

●もちろん田村明さんが先導されたのでしょけれど。

●特になんかありますか、あと。なければ一応、ここで。

田村 でも、さっきずっとね。彼、一番先ほど言った20歳代の、アオキさん、社会学の、今度そういうIPHSっていう国際会議で彼が社会学的な目で田村明を見た話を英語でやってくれる人なの。小田島は、僕の中学のときの同級生で、さっきもちょっと言ったけども東大の法科から九電に行って、今の話になってるわけ。明とちょうど反対なの。最後に建築に興味を持った。明は建築から法のほうに行ったっていう。

小田島一 田村、俺、先生と比較できないんだよ。レベルが高い、ちがうよ。

田村 いや、思考の過程としてだから出来ると思う

小田島一 ただ、まあ、しかし、九州芸工大に行って、建築デザインからどんだんのめり込んできて本当に楽しい。もう、後半の人生が俺の人生だったって本当にそう思っているの。

田村 うれしいよな、そういうような話は。

全員ー どうもありがとうございました。